

「イエス様の祝福を頂きながら」

現在の祈祷書は1990年より使用され、30年以上が経過しています。現在、新しい祈祷書の発行に向けて祈祷書改正委員の皆さんを中心に改正作業が進められています。「祈祷書改正ニュース」が定期的に各教会に届いておりますので是非お読み頂きたいと思います。ニュースの中に祈祷書改正の理念について解説されていました。それによると改正される祈祷書は、日本聖公会において信仰と生活を共にする人が、神に造られ、いのちを与えられた民として、キリストと共に旅路を歩んでいくために用いる祈りの書を目指すことがヴィジョン（目指すべき姿）として示されております。教会は旅する教会とも呼ばれます。私たちは主と共に神の国の成就に向かって日々旅をしています。祈祷書はその旅に欠かすことの出来ない良き同伴者となるものです。私は新しい祈祷書が発行されるのを楽しみに待っています。また、改正作業をされている委員の皆さまのためにお祈りいたします。信仰の旅路を歩み続けていくためにも私たちは、絶えず主からの祝福を頂きたいと願います。聖餐式、み言葉の礼拝、入信の式、結婚式、葬送式、聖職按手式、日曜学校の礼拝、幼稚園の誕生礼拝などすべての礼拝の中に「祝福の祈り」があります。東北教区ミッションステートメント

である教会を開き、献げていくためには私たちの心を開かなければなりません。そして、開くためには一人一人が主からの祝福を頂き、「私は大切な存在」であるということが心の中にあれば喜んで開き、献げていけると思うのです。子ども祝福式、敬老祝福式、成人祝福式、誕生祝福式など私は出来る限り「祝福式」を教会の大切な宣教の業として行いたいと思っています。祈祷書改正ニュースに、ユニークな祝福式が紹介されてきました。それは「かばん（ランドセル）祝福式」です。大阪教区の川口基督教会で実践されているそうです。入学または進級する子ども達を対象に招待状を送り、3月下旬に行われています。「神さまがこのかばんの中に、本と共に神さまの真理を、鉛筆と共に美しい夢を、正しい意志と共に粘り強い信じる心も込めてくださいますように。かばんが子どもたちにとって重い荷物ではなく、人生に必要な美しい同伴者になり、良い友となりますように。」とお祈りするそうです。この「かばん祝福式」は大韓聖公会の多くの教会で行われているそうです。素敵な式ですね。私たちの教会でも是非行いたいですね。教会がいつもイエス様の祝福に満ちた祈りの家でありますように。（司祭 越山哲也）